
冬の帰り道。

Maria

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬の帰り道。

【Nコード】

N9954X

【作者名】

M a r i a

【あらすじ】

ほらまた、どこかで誰かの想いがポツと照る♪

ベリー色の新しいコートがちょっぴりおめかし。
粉砂糖のような真白な雪が肩に降りかかる。

冬の日の白い息はそれぞれの優しい、愛しい想いを包んで舞って
いくの。

いつかきつと誰かの元へ届いたのなら、そつと頬に溶けこんでポツ
と照る。

ほらまた、どこかで誰かの想いがポツと照る。

「寒い？ほつぺ赤くなってる。」

何でもないようなことが、本当はあるべきすべてのものなのだよ。

木枯らしにのって舞って来た黄色の葉っぱが、そっと耳もとで教えてくれた。

それを今すぐ君に伝えたくて、ふっと横顔にふれてみた。

まるで雪が、雪の粒が頬をかすめるように優しい口づけを…

だけど君に触れた感覚はなぜだかとっても暖かくて、少しだけくすぐったい。

私のくちびるのせいなのか君の頬が熱いせいなのかは、二人だけの内緒ね。

仲良く並んだ二つの靴が素敵すぎて泣けてくる、なんて云ったら君は微笑むかな？

でも本当だよ。

同なじ世界の同なじ時間の中で、みんなそれぞれに生きているのに。

いま、二人の靴は信号待ちでぴたっと止まっている。
ぴったり二つ、仲良く寄り添って。

こんなに素敵なことってきつとないよ。

「何かいいね。」

そういつて君は私の右手をぎゅっとして歩道を歩き出す。

こんな風な冬の帰り道がたまらなく幸せな、二人この頃。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9954x/>

冬の帰り道。

2011年11月16日18時11分発行